

民間型小規模幼児園は、 収支的に運営できるのか

塔村俊介 議員

教育長 町が何らかの財政支援をする
必要がある



問 幼稚園の保育所化が進められている中で、奥出雲町内から幼稚園が一つもなくなることが想定される。幼稚園教育の総括と保育所への幼稚園教育の活用を考えはないか。

答 安部教育長

幼保一元化が進む中、町としても様々な角度からこれまで培われてきた幼稚園教育の継承や教育環境の充実に取り組んでいきたい。

問 幼児園化は、幼稚園の保育所化と町立から民間への民営化の2つの側面がある。小規模幼児園を民間運営で、収支的に運営できる状況なのか。

答 安部教育長

町が何らかの財政支援

をする必要がある。(後日、総務文教委員会にて1カ所あたり約500万円以上×9園が想定されるとの回答)

問 少子化の現状を考えると、ほとんどの学校で複式学級が発生すると思う。複式学級の先進地北海道では、教師の研修が重要であると言われる。教師の研修の充実を。

答 安部教育長

現在小学校11校中5校に複式学級があり、さらに2、3年でもう3校程度増えると予想される。教員の研修については、基本的に県の責任で実施されている。その他は仁多郡教育研究会の中で検討する。

問 小学生のスポーツ少年団などは少子化の中で大変厳しい運営となっているところも多い。また、小学校での少人数生活を補うためにも、スポーツの中で大人数の生活をし、感性を育んでいく方法もあると考える。再編の考えはないか。

答 安部教育長

スポーツは、剣道・ホッケーは小学校ごと、空手道・サッカー・野球などは競技ごとに組織され、17の単位団、団員数は352名である。現在のところ再編の話は指導者等から

出ていない。

問 再編した場合、送迎が大きな課題となる。保護者の意見を聞いてほしい。

横田高校の志願者数が定員に対し半分強で、仁多・横田中の卒業生の半分が町外に出ている異常な状態である。町としてどのように考えているか。

答 横田高校を維持発展

させていくことは、重要な課題であり、地域を挙げて対応する課題である。

問 志願者減の原因は何と

答 安部教育長

卒業生の減少、プラスバンドやスポーツなどの部活動、将来の職業選択が主な理由と考えられる。また、保護者の出身校や交通の便も原因の一つと推察している。

問 町としてどのような対策を考えているか。

答 安部教育長

小中学校の教職員で自発的に立ち上げた奥出雲教育を語る会が活動しており、支援したい。町民に対して情報提供を行いたい。

問 自宅から通える高校進学を選択肢を残すことは、将来ふるさとへの愛着を考える上でも非常に重要。県立高校で難しい

面もあるが、隠岐の島前高校では、町の教育委員会スタッフが高校に常駐し、高校の建て直しを行っている。積極的に関わってきたい。

次に、全国屈指の情報通信環境を活かしたまちづくりについて問う。最近開設したホームページ奥出雲ごごちの目的と展開はどう考えているか。

答 大きな狙いは、まず、

奥出雲町の観光情報を出す、グルメ情報も出す、奥出雲まで来れない人はインターネットショッピングで注文をいただくということである。

※似たようなサイトがあるが、利用が伸びずに、だんだん下火になっていく例もある。奥出雲はぜひ成功してもらいたい。また、奥出雲を丸ごと売り出すコンセプトは良いが、情報が第三セクターに偏り過ぎていると感じる。機会があれば、自分で米等売ってみたい農家の方もいるので、そういう方を巻き込んでいってもらいたい。空き家対策も町が整備したものをインターネットに載せるのではなく、空き家の情報を町自体が一元化して管理する体制を整えてもらいたい。